中

里

は

俗

0

寶

庫

船

合

査

Ø

果

Ę

闸

\$

**燃焼に動れ間いた** 

簱

0

想

羽にがち

うら人てさ

17

ځ さ か

(1) 第15号

り名潟の澤大の学調 場大本講學駒の査 民教学間師の形機は 俗館の薪と中教井民 にが孝晴縣川融教俗 中原氏文、心教、化明考 授班 hi てと授地財治古十東 はなと質保大班日京

宮の新員芹教校大 、つ土班護学に町教 市で商は委の立商管

た侍れ民がて月こな物し央市調 が、俗、大十れメ、、、町査中 か第の特き七がス歴考縣村は魚 け二質になり 日第を更古下會、沿 の主願は 日第の主際地 れ調との果り期れ五民權催教區 る査折調が一調る分俗版の育の こに紙作墨週季と野 、者も委文 と大がでけ間がとに地をと買化 スきつ本ら行去」、徹質招に會財 ななけ付れわるな底、へ、と總 つ期らはたれ六り的生い中郡合



寫真は 教育委員會の二階で32ヶ所から發見された上器、 器などを分類整理しているところ。高校生の應接も

41 あつて予想以上の貴重な資料を數多く發見すること

アてそウ

1くれた

\ れなそ

んでうばもで

下云好るや

則 ---

通つエ進方し選 をに さわい少つ 、農あよーいずがしたそ例た何めのて投明 。にん早んこのん時ら者 と祟士 最後、 でようない。 がれがの日は でなる。 ではないがのの日は でなる。

村わ三併年 單ら分が 位すの進そ業ける口 `一めの金てもに そ委にら聞員みの云 の員减れ全会ただつ 国法いがて ほ会じ とのた町的が ん数に村に出 以律 どはもの町來 F-0 要改 が旧か敷村て 残町」は合六 点正 概あすそし

けから

るらお

6

題なおをまく

機りよ

**電振ま卒し事おたつおかい後御** 寸 かんで いらば 、 うなだ エーでのい業たも便位とか校ろ御無 9 で生我ば、なだ詩語がれとくれ "ありで此わで / 元沙 枚はもし生 先 六のな大 けをすのりは\気汰 ツ悪が人封 ずいか頃に三ので致 、たら戦な十事すし すず、道つ四情かま そ も許しび書な nむにしてやか みい皆にた名で る謎好い葉な 必のみ能す投なはな評と 耒 を同てらいみたんれの 平と選旦 h Ł Ċ とすに ر ۾  $\sigma$ う体をたわさば 出かマ 心 、 心 な 過 手 れ な 型 に ら ろ イ たと のと 極や個紙では別保証ナ でで け文にもいれるい断ス治 ٠. ٠. ٠

な

十月町新聞社 附信地 近 農質信

第二行

中里村公民篇

印刷新

アチ 後と 發帽 い 皮係 の川 は 事 党 ター 側 り 見子 ぶとで 本調の 治 甲屋 シオ度あざ于しい今調査合準計のヤヤでけれ、子わ迄在が流脈岸一 のケー親た側一れ能民行点及の里呼、な、と度、た登俗われび任塚 んととが烏一平でれず清虚の 前ごりょる相い島はたの非別遺 うる子がが 家あ 

期さ平高考全まの 辰 ののの無珍残行 越一造土しつ事 "うんとな 選 あ農 の布象が時とい のなにいする業 がとなでるが変 土場が学代いる背 器よら川へわこそ 11 選 片り發の約れとの 般にて墨かどの が早見堂一又はま う的が響の蚤 。に発の遺見 止地 重 催 み見坂跡さ つは てさノがれ た後期 學れ上確た 界たか認他 급취 のこらさ

れつ

のなへが大う改 さくさ 迄効のてし ことれ川れ れて澤 `本 • 丸遂の員はる倉村 な行出会村 "保省 いに來のの とそ ニの こ 万 た 性 行 と金分格政 - )例 TO 54 はな日か機 いる ち脚 運で

一とつ選の

と町そもは職です村とな期務合 る一でいさの併委でい と個先 いたろ う航農 集合集 がすを -- る 負 点を会は

にげんれが子 斥るだをる供 っては 御と食味が事 のの 水 食 で走あ中 でど茶しす水 1=

すとでてがを · 12 もに内物秘 て毎 與にのお臓の作食 えコでけ菌吸用事 たツするの牧を中 方ブか関係を高に が一ら敗殖よめ水よ杯、作をく、を いのむ用防す消飲 °水しをぎる化め ことしば をろ減 な食ず的にた 食分 え事る臓

問と觸れ三

己 式特二

な地土にカ

`~|·

題は生

ろ理器田所 は例迄でがつ委従りし

10

Ĭ

備

え

う實そしと ながも出た從とはばをと委大更原 ると機する来か知な有と目さに因と十でに、出な員來废か。、大この各、事らす、会くそでの大き巾と來が会選くし でしたを都縣のなる事内改のあ二名めをれるり十舉な町処、に各市の承い農務に正組る点とる擴をとの五につ村 

3 لح 力。 た。長 れあて樹ないあ まてさ楽のも中 脱で、の字今せらんりで先皇今 宇し教書も年ん御か出、生村年其りがた務きろので返らしゃが七はの間 就 • **"**( 下る のる义人昔名ばう

> 歌と国てさた。 に願にいましさ 診係おる人 10 つき まがい梅 顕と闇れとくつ自様 で生きん の生さる。 で生る。 で生る。 でいる。 でいる。 でいる。 でいる。 でいる。 場に対する。一の予 ひ よ 想 ځ

"好々かでいのさ

する置が言そりよると 数 と 変 れ 数 さ 時してれてが日おれ \*又みを呼うといる 即はる人ばつなをが る内し 。でて 欲だじ依然氏 そ完はか込つ例々 このれ れ全外らめてし動 が燃界

エ梅個つ梅 ツ胴々て胴と 100 を抒機で持が 持骨相れつ梅 つはがに原雨 に多加機型に 豆 様 味 々 的 依 るのさの抒る 。シれ人情

り校に糞だり誰と 、東ん明で 進京。かど で打思職 でお思職 である 様うすい遊りの ががるる谷てか あ学為卒局あ

が意設熱まば齢人がの

\*に乍に年頭い野か築困の

下、てど見えつすのくのが、さーはう窓なて。田れ人心

い日なかつくあ列沢る間身

\*々ら健たなな車のとに共

で々ぬ康のるたが驛とすに

はを人ででま方七でをく健

御眞物職すでの川見期ノ康多倒に場。浜振の送待へで

つがわの

つ見たであて前方

でる橋つし成、

開が 会ま人はいいいの來ししの にすばあか仕か仕をひよ要就まと必生かまのだ で、事でしう。(職せし要がらせ証け、がまとがもがしとがはしんでない東んのではないないない)ではながってではの進京。かどは女子のなより、少てではの進京。かど の思させ氣外つむよ身 しったよつの收の私え至か月のしとくくで入でに始さつ。 べたいあこはのははめもた仕 る機」のとな多なこてひで事 な時とま少布ら入士張し暮らい難先の

散う寫とし生む

かる族難の代と世年團家り六つばな和たと輩で 。よのしかのがん時のが、歳てつ望何も闘は よう寫とし生あ。代襟戀潤の下てをにのつ例 郷な真つま所りあををし灯時さと起のでて外役 のともいれがまな忘ぬくラ師い」さしす今な職 例とし、て今せたれら親ツ腕。一ず上。日しに 親はみ卒望更ん方るしのパの私、にる一のに居はあり、紫郷のかに事た有を留は二郎よ躍地幾る あり、窓のよ。はがあ難間宿野年をう小位多職なま眺翼念う中そ出のさき舎び間食な僧をの湯 | たせめや堪に学ん來 容位下

易でマ

に出り

むしを

けて熟

主皮湯

でもに

は入

ぎれ

**#** 三

· -- ---

と秘

りす紅々るはるる 出る 進た 美時生 す事のる のも炎生でなる 活:の エて間でい `のあや あく出の **♦** Ø がさ ċ 鳴宿みく夜鳥乱景情干成更し 、歳てつ望荷も顕はす のだら深 35 雕 れむ (C & n 7  $V\subseteq$ さ iri

動梅意 を耐象 学をの 公沙背 無三形歴そ れで観年も中で のしでと 物あと傳た n 思つの統し日が き いた思で、本過 万 居よ想あ叉人去 槳 づ

え の食 10 岩丹 心 近来) 細 辯 (集夏)つち行 Æ, し想 ば松そ ◆ ◆ たがそ选 "し軒五最五

越

ばだ形 。成

れら的る日の三 世し

女格年 6 ō ~

めて K

から相いを後

ら農当や

和許しなのて 歌さてい詩叉 三れ更が等北 ・た原 育るに のなと 数秋 最らゝ えの 後ばで 私  $\circ$ げか 欲前の

æ 記夢 れら

月上月蕉てら眞て 雨川雨の近れ蕉 家二

さくず刈 はんる 汇金~ 戸東き 時集かれた

の見も知 で民な流或五 との眼たそ • な像のそす達被さは月即ででを背 ·の害れ家丽ちすは向景 姿をなをに歌 いなと薫 が受い流依わ かくそは 想けにさつれ 像たしれてた :は我句 さでてた田歌 れある。やの となべ歌 いらがわ 畑背 るろ

, K

うな深の

といくれ

でレ人 祈仂よな すも想人 で々なつ無日つに くた情本たとこ つす我し と觀人種もれ 得一云思の々なが てる々て すつう想性のう五 い以が此 格自洪月 る上現の るの事" 事はをを然水雨が貫、形、現。 とに代事 い悲人質 う慘のは 出と誇成そ象 果さ尺 來し張ししが 實を展現 るてでてて我とそ でとで代 の我もい "々いれ

はな若り史とすはとが襲ま的ろ。納 めらにすにして、財で脱て な私の め我 の光 る々 事は 織つる も昔 B O TI O えを 能姿 のみ でを 隨や

生下

幸でなで

をおるは

行

識

さ

(2)

>

**~** 

か

り

Ø)

水稻栽培

てを早労る血高注と活生血

▽もをばそ期腰の搖通に様過常 ▽食質も、し日、過すの、に食生衛高

こは、御明つ危てを早労る血高注と活生血と、物療なて險適作起をも壓血意を中的生

で分に法の生は富るささのと壁し出に生症す量つ で活ななよとけで異症ま死起活の

ひ即 ②用黄の蛋支さ二を(普魚じジャンの) かち出脂し奈製白えの合用通をま、牛生種

▽んにやを血の性病化で先

褪たす壓大の氷が

るられは多病を起そ最血

で中分も性がよの全墜云

あ心生切血高ににの高肉

り職会と変配のなり、無法の主義を変更を表している。

え榮豆くを切

な養るあしな

けともりてこ

せ弱承生で症慢な硬つ

上村病院栄養士

食

餌

法

を

章 介

高

血

壓

な

にで前ケ田ワ仕 草る

事稲前澤良三い れ当がのか山い番う田取の出なのにナのセ事ウ 然良根ら、のゴ効のりはてるび終イ草もはマイ出いをは出だ止果中す勿来。たら。取オ大イ ば然良根ら 意た

、來か草はをる論る や入穂「取ですらのさ めつーDれで、な爲く るて月でば、といにな る下多水 あぎ供て るに選禁(1)しち特 °ゆは示水てかに 親くかす 泳もらこ

稻な止りク勢物 のけ草 ・テでは **夕角の大**クかだ 1今一体タりが ま月イのに ` S 穂穂 °のくの水 年、事の水 人や がつ

少し故シ難 者かはし き がも十六人がほかが と 八 八 が 人 が 月 訪 月訪 — ど七がれうで厳一た あ以番 い諸が諸

はよくるはら次の 子うれと危いの季 いたよ節 のなこかかいうに な家 育りつえら 点庭 遠がそつと をちりてい を うして い で で で か と か と か と 大 で 泳子 つ 注 人 し慮子うのて近が立

供にて 

ワ穗 セが 早準 自仁 にな クと

な分つれツが良所長上と喜たか、 モびせらほまと水のツなヤ、んだい稻試 テが1っと/えの皸 根がは出れ一と人 十一 からになるの できる と 人 からになる できる と 大 が は 地 が は 地 な 穂 き 心 と は 草調がめは発順--を子大てキ袋調現 すで部はンしで在 よと草品用緒 干頃 たァ いどが種干に昔しに止ける。の終にとなばたは草れ七

る半登とモた"の

入つよいつこ方かがば月 るたつつたれがえおな 位らてたもが増つわら十 まがの暦收てれな日ち、だのす水ばい頃 Ŧ 今か土るを稻 はら用。切も 非三、はら用と常日、全、と 常日、全

領その 年しゃ あくるじ b よう方

うた。 に小止く土一 だ たから、ととりかえしが、当ればウマイが、 もらいたい。 をやつては大体組は一生のうれさが、その一回が出人ををやっては大体組は一生の方が出来がつているようのとがサメて、肥切れているよう。 をがサメて、船切り、水のでがある。といわら、よく考えているよう。 をがカくなつて、強がやわら、とがサメて、船がサメスで、船がサメスで、船切り、水のである。

にれるらが、稲稲でうらなない。 はがツ硫マのの ニはカ安ツ子株穂 はくの やつ つかし てなく

るか出わう

ろ

のら穂れちが、心てに 上と二い三 メレらる / れ度の 三 た、そか、、そ二と質

終

ĥ

てがが

である。 一でである色がか、一郎なのだが、一郎なのだが、一部なのだが、一部なのだが、一部なのだが、一部なのが普通でなった方のがき通びなった方が良い。

**うき一平** 

を夫

てと。でし、意になつ上した。 や思ま遊な親溝し対いてので るつたばいがなてし ・安子や 心供る しとこ てーと

うら人る、くの意は、 と泳をも樹注

合

す婦ひ るはさ 計つし 書れぶ でそり あつに

`のを!

変ら救 誰達 ったとを 長子 しゃ 示なな かいでがにり。十時供、のを を場求よれ意ふたに水体備動く 用にめいそすざ水と泳力運を守

家庭

つと

ての

いせいなあかく丁穂 い毎穂に、貫均反合 で度肥す決位に当が しのにるしか、 うとンがま砂なだ のなサ大き 、な

野 がの

いの特にののあ

ながやもか日つそ

たつ何と別最もな いたかかと初の場

## 7 7 る

\_\_\_ ζ

でしいときというのだからでした。 でいときというのだれれるとである。 でいっているのに生活というのだから、 でいったもとにであるというのだから、 でいったが、 でいったが、

るてそ 。 映の 画家 見の 悪と

、生分間の準行よ

ීන 庭 Ø 夕 食後 0 0

よまの

るかち映ち

。 けよ は つ 見 残

なと學し

れ私とて

るぞ

ζ

で

がある。なまでなったとないが、 なぜ加か 意生 いて里

0 躾

の世話をしたったの世話をいる。 をあなあ やとがとおる りしらは母長だま、大さ女

きにてきぶめ

た父ゆたりき

か母つとやく

でしりじ考と

`*†*c 母で 大にあ

氣るやた

持

を

ゎ

1

°БП

しな

いん

とぞ

け私み話でをきなに子よ言 たはまく 時長せ思長 か持ら て 感親 あてとらえか よでわにしのか合 たたい夜 でしょ見さしにほろみいれ方らそうありててこ がこもちう間し か持ら

れ母

るに

でよき

あぅあ

ろたい

ろ気や

Ø

V ろ

。画と

ついぐき

る庭 なで

くつらにとりもいはの さいみ父場

せそに母合 (三面へ (続く) を母にいいい。

ゆ

## 難 Ŋ, り

供

De

注

合

## お油すしの \*飲文もよイし商ロや ソ生ふみて所ち 發 1 した取置、が種生 酸○カエ十 かに人 ルそを口く台い類源: つよの 等すること。 等すること。 ですること。 ですること。 ではなさえる。 ではなさえる。 ではなさえる。 ではないで、 がによって登 がによって登 がによってが、 がになること。 のではなること。 のではなる。 のではな。 のではなる。 のではな。 のでは、 のでし

傳 五

たの

と割

とで

がハ

延平賞體食一四げの殿のし (5) ん澤らと賜とトへめてにキアるドーな :水。山、なへ、ロサたい血ール性をヒい い方がよく、又緑茶やいった方がよく、又緑茶やいますから、これを飲みをは質をもつていますした方がよく、炭酸が腸にたまつていますから、これを飲みをはないますがよく、炭酸が腸にたまつて、炭酸が腸にたまつて、炭酸が腸にたまつて、炭酸が腸にたまつて、炭酸が腸にたまつて、炭酸が腸にたまつて、火量ならよいのです。 して飲んではなり、又緑茶やいますしてのようないようないますしていますしていますがよく、又緑茶やいまないようないますがよく、又緑茶やいまないは、又緑茶やいまないは、 ますす狀てま せがか態鼓すシ料止つラス、めイコ

の遊ずくし便も本は

をと下すのつ池立下がす蚊◇ 飼と水る発た沼、水あるは っ。なと生場、竹、るも恐

なののし弟へ

あといやつ

うい自タづ

たろ分食く

か心に後

も持出の

'n

知か來あ

れらる

がふし

。れ人意

し無

てのは、

土理と

ラ 解う

とかし

とらて

食べ

方

はな

6

われく直 かばし接水水 ぬなま心分分 程りす臓を 皮まのや澤 にせで腎山止ん、臓に (以此ん、臓に取り でまの意負り す。どしまま かけ重と

い穀カ子

ますはうの

いよいに長

た」〈無女の

るにはるて子け

こようや供る

とつみかるた子

は一てしとのた

な方大つか身ち

か的人けらにの

よあ

でてし

ろにだとでなし

、よと

つ考とい考はになぶしの

けえとだえ、おいさ大善

。こち供

シェ万蝿 ズ蚊 カ ンが K 6

住みし目撲 よあに滅

第15号

(3)

す量つ

そい

食食て

連ベー

の過春

分ぎ惡

量てい

た脂る性す

方肪だ食

が類け品

よは少の

くてく食

食病ま方

こたざ なつれ し付りと暑

をみてが生もく

福ん今八し多な後一蝿 

ぐ人す

物に

かっな目 赤ろ

万匹虫と個◇土 厚痢めへ匹はに一の…に 生でまエに八なケ卵:し 省すすは相月り月をハた 。が色当のまも産エい マナ干すすみはも 番傳と、6ば卵月だ 困楽い九七立はに る病え月月派か約 のをるののなえ二 『百一成る百

うつでくと

生理意しらい

も帰を人をな

たにまで育な

らもか出てしてするせかなつ

よ供てけいけ

一なる匹かれ れ解味たどろ 

れ立いもる尊父のろのにがい願とそ たつつとえ供愛んしてい ,理

るとりば ろに見干とは

い彼となるる供き子大うおけいはつつ家少みば子も岸ん氣よとたに供人。しのうなてけ座くつ!供 ののながいとちはのの で話生す結がに失自一 あたる果、あ婦主方のおも。を夫と二性的 るおも 5 V

せ線

たの

くな